



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年4月10日(日)

Vol.325

墮ちたヒーロー清原とダルクとは

秋元 秀夫

3月上旬新聞テレビはかつて野球界のヒーローだった清原のやつれた白髪交じりの髭を生やした映像が毎日の様に流れました。ご存知の様に禁じられた薬物使用容疑による逮捕の姿でありました。競争社会の中で常にトップを走る喜びと誇りがあり、陰には常に栄光を支える厳しいトレーニングと節制に耐える精神力が必要です。私もかつて陸上競技を10年ほど続けましたが、この辛い練習はいつ終わるのだろうか、気楽な普通の青年になりたいと思う心がありました。幸いにも私はこの陸上競技を通して「俺が辛い時、相手はもっと辛いはずだ。もうひと頑張りすれば勝てる！」という精神力を持っていた事、他を振り切ってゴールへ飛び込む感動…それが後日、京葉工業地帯造成によって海から陸へと転業して悪戦苦闘した時、いつも心の支えとなって今でも続いております。それに引きかえヒーロー清原は私達とは桁違いの栄光を守り続ける身体・技術・精神力を支える心と人がいなかったのか？単なる天才であったのだろうか？と疑問が残ります。人は持てる能力に全力を注いで戦う時、必ず良き仲間、生涯の友は生まれるものであり、また異性からも好かれるものだと聞きます。現役を終わり、一人の社会人として生き、老後を迎えた時、何人の友がいるかが人間の本当の価値であり、幸福感があります。心を託す友がいない孤独感が「切れる老人 3/19 東洋経済」を生み新しい社会問題となり始めております。清原氏のニュースによく「ダルク」

と言う名称が出て参りますが、正確には「ダルクリハビリテーションセンター」であります。創設者とは30年程前に出会い、薬物中毒の危険性を県下に講演して歩いておりました。それから20年ほど前に母子家庭の母親が突然我が家を訪れ「実は息子が明日刑務所から出て参ります。息子は薬物中毒でその売人も致しておりました。今後どうしたらよいか助けて頂きたい」と私が今まで経験の無い相談でありましたが、私はダルクを思い出しすぐ連絡すると「出所したらシャバの風に当てずまっすぐここへ連れて来なさい」と言われ、嫌がる息子を説得して連れて行き、彼が快く引き受けてくれました…ところが問題は沖縄ダルクへ送る飛行機代等3万円、毎月の費用18万円と言われ母親は沈黙してしまいました。私は即座に「費用一切私が持ちます」と答えて3年余り無事まともな青年として帰って来てくれました。毎月盆暮れに一升瓶を下げて照れくさそうにやって参ります。最初女房はなぜあなたが18万円もの大金を出さなくてはならないの？と言いましたが、二度とは言いませんでした。お互い一人の孤独な青年が助けられるならば…

富士食品創業以来、多くの人に助けられ今日まで来た私たち夫婦の受けた恩はいつか誰かに返していかなければと思っていたからであります。これがきっかけとなり、何時か通称「秋元年金」と言われ、今は金額も倍以上となって今日まで続いております。多く子供達の憧れであった清原氏が立派に再起されていく姿を子供達に見せてくれる日を願っております。ダルク(当時)は特別な医療でも宗教でもなく、薬害者同士が大自然の中でお互いに健全に生きる道を探し、話し合い、励まし合って共に健全な心と身体を取り戻していく素晴らしい人達の集まりでした。あまり表面化しておりませんが、潜在する薬害者が君津は家庭の主婦の中まで多く入り込んでいると聞いております。お役に立つことがあったらご相談下さい。